

「みなとパネル展」・「みなと座談会」の開催について

7月16日から18日までの3日間「ザ・シンポジウムみなと in 釧路」との協賛行事として、国土交通省釧路開発建設部及びNPO法人北海道みなとの文化振興機構の主催による「みなとパネル展」及び「みなと座談会」を開催しました。

海・港・暮らしを地域で考える「みなとパネル展」は、市内のスーパージャスコ1階サンコート広場で開催しました。

パネル展の開催に先立つオープニングセレモニーとして、16日午前10時からテープカットを行い、釧路市長の挨拶に始まり、釧路開発建設部長、釧路商工会議所会頭、釧路観光協会長、マーメイド釧路の女性2人に加え、参加者の中から可愛らしいお兄ちゃんお嬢ちゃんなど多彩な顔ぶれが一同に会し賑やかな雰囲気の中で開催されました。

このパネル展は、「ザ・シンポジウムみなと in 釧路」との共通テーマである「クルーズの魅力と釧路港の未来」を念頭に、北海道全体の観光と物流を意識しながら、釧路市における港の機能や「釧路湿原」・「阿寒」・「知床」という三つの国立公園を背後に控えた個性的な地域づくりを家族で考えるきっかけとなるような展開を願って開催しました。

また、「みなと座談会」は、16日午前10時30分から、釧路全日空ホテル4階「錦の間」において「みなとまち釧路の食文化と観光振興」をテーマにして「北海道みなとまちづくり女性ネットワーク」事務局長の古屋温美氏の司会で始まりました。

出席者は、釧路市内でまちづくり活動に取り組んでいる方々で、店の経営者から会社員、大学生まで幅広い立場の人達が、それぞれ地域づくりを実践してきた中から、釧路市の未来について熱い想いを約2時間にわたって議論しました。

なお、この座談会には、釧路市港湾部長、北海道開発局港湾計画課企画官、釧路港湾事務所長、などの外函館、室蘭、苫小牧、留萌、紋別から「北海道みなとまちづくり女性ネットワーク」の会員が傍聴し、座談会終了後、合同で約2時間にわたって「地域懇談会」を開催し、座談会の感想などをまじえながら地域づくりについて意見交換しました。



オープニングセレモニー



みなとパネル展の会場風景

「みなと座談会」

ーみなとまち釧路の食文化と観光振興ー

1. 日 時 平成 17 年 7 月 16 日 (土) 10 時 30 分
2. 会 場 釧路全日空ホテル 4 階「錦の間」
3. 出席者 永田 敦子(NPO 浪花町十六番倉庫事務局長)
相馬 里美(釧路市賑わいのみなとまちづくり懇談会委員、釧路公立大学学生)
佐々木 順子(四季彩)
佐竹 直子(釧路新聞社報道部記者)
松実 知子(釧路観光協会)
平間 育子(釧路市女性団体協議会会長、消費生活アドバイザー)
(司会) 古屋 温美(北海道みなとまちづくり女性ネットワーク事務局長)

司 会 これより釧路みなと座談会を開催いたします。

本日は、皆様お忙しい中、この釧路みなと座談会に御参加いただきまして、本当にどうもありがとうございます。本日、私、司会を務めさせていただきます北海道みなとまちづくり女性ネットワーク事務局の古屋でございます。どうぞよろしくお願いします。

きょうはオブザーバーの方も 20 名ほど来られていますが、私の方からまずみなと座談会に出席される皆様のお名前と所属を御紹介させていただきたいと思います。

まず、NPO 浪花町十六番倉庫事務局長でございます永田敦子さんです。

永田氏 永田でございます。

釧路市賑わいのみなとまちづくり懇談会の委員で、釧路公立大学の学生さんです。相馬里美さんです。

相馬氏 きょうはよろしくお願いします。(拍手)

司 会 お隣におられるのが、四季彩の佐々木順子さんです。

佐々木氏 きょうはよろしくお願いします。(拍手)

司 会 釧路新聞社報道部で記者をされております佐竹直子さんです。

佐竹氏 よろしくお願ひします。(拍手)

司 会 釧路観光協会勤務で、北海道みなとまちづくり女性ネットワークの会員になっておられます松実さんです。

松実氏 観光協会の松実です。きょうはよろしくお願いいたします。

司 会 釧路市女性団体協議会の会長で、消費生活アドバイザーもされておられる平間育子さんです。

平間氏 きょうはよろしくお願いします。

今回、まずこの座談会がこの釧路で開催されるということになった背景というか、その辺をちょっと簡単に御紹介させていただこうと思います。

この座談会を主催しております「NPO みなとの文化振興機構」は、港と町の歴史とか文化、それと港の役割

といったものについて広く市民の方に理解を得るための広報活動を行ったり、それに関連する事業を行っている団体でございます。19日の日に「ザ・シンポジウムみなと in 釧路」というのが、釧路に寄港するクルーズ飛鳥船内のグランドホールで開催することになっておりまして、その共賛事業として、16日から18日までジャスコ釧路店の方で「みなとパネル展」というのをNPO法人と、釧路港湾事務所との共催ということで開催されております。今、パネル展の開会式のテープカットがありまして、そちらの方に行ってきたものですから、ちょっとおくれてしまったということなのです。皆様もぜひそちらの方にも行っていただければと思っております。

このみなと座談会はパネル展との一環事業として開催されております。それで、今回釧路の皆様が集まっていただいて開催することになったということです。

今回の座談会のテーマは「みなとまち釧路の食文化と観光振興」ということで提案をさせていただきました。ここにお集まりになっていただいた皆さんは、食文化ということになれば、生活とも関連するというので、また、観光とかで訪ねてくる人へのおもてなしということを考えても、やっぱり女性ということかなというふうに思います。

かたい説明になりましたけれども、それでは、これからは気軽に、皆様のご意見をいただきたいと思います。きょう大きく三つのブロックに分けてお話をさせていただくのですが、最初は、ご自身の仕事や活動などについてのお話と、あとは港とのかかわりについても触れていただき、お一人5分位で、全員で30分ぐらいということと考えております。

その次に、釧路の魅力ということで、地域の食材や観光と自然との関わりなどを中心にして意見交換していただきたいと思います。皆さんが釧路の魅力だと思われるものと、その活用ですね、例えばよそから来た人をおもてなしするときにどういうことを釧路の特徴として見ていただくのかとか、観光振興に関するアイデアみたいなもの、恐らくいろいろ実践されたこともあると思うので、そういうことを、お一人7分ぐらい全部で、45分ぐらいかなというふうに考えています。

みなと座談会ということなので、女性から見た釧路らしい港町づくり、いろいろな提案ですとか、きょうは、行政の方もオブザーバーで来られていますので、行政に対する今後への期待とか希望とか、そういったものもお話しいただければ、これから参考になるのではないかなというふうに思います。

現在の活動と港との関わり

では、平間さんの方からお話いただきたいと思います。

平間氏 実は私、岩手県の生まれで、そして水田のど真ん中で生まれ育ちまして、港には本当に縁がなく暮らしてきて、釧路に来て初めて毎日の生活の中で海を見たのです。

海を見て、その当時は幣舞橋の近くに、例えば今の時期であればケーソンの船がずっと並ぶとか、今でもサンマ船がちょこちょこ来ているのですが、子供が小さいときは、とにかくにも帆船が来たといえれば行ってみるとか、水揚げ場といったら子供たちを連れてサケの雄と雌と選別の神業的なものを見て感激するとか、今でもそうなのですが、私にとって港というのはすごく珍しい存在で、船の形見ても、ああそうなのか、こうなのかという状態でできております。

子供たちが大きくなっていろいろな活動ということがありますが、直接的な港とのかかわりはないのですね。ただ、いろいろと団体活動の中で、お越しいただいた方には、釧路を紹介するには、やっぱり魚とか浜とかそれから港とかということに触れていただきたくて、そういう形で釧路を紹介しております。

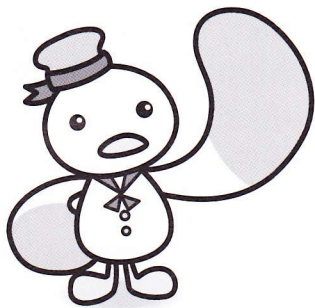
松実氏 釧路観光協会に勤めております関係で、きょうはちょっと釧路の紹介と釧路観光協会もちょっとは頑張っているんだぞということでご紹介させていただきます。釧路を紹介するものは、ほかの市町村に比べても食に関する資料を皆様にお配りしているパンフレット類は結構頑張っているのではないかなと思います。中に入っているパンフレットを見ていただくと、釧路ラーメンマップですとか寿司商組合さんで出された寿司マップ、それからそば商組合さんのそばマップというふうに、それぞれの団体の方が釧路らしい食文化をもっと皆さんにわかっていただこう、広めようということで、とても頑張っていただいております。観光協会もそれに協力する形で、釧路の代表的な食を四つに絞って、おいしいぞ釧路は、というのを何とか定着させようと四、五年くらい前から頑張っています。

そのほかにも、釧路は、釧路独自のいろいろな鉄板スパゲティだとかフランクフルトに砂糖がついているんだとか、おもしろいところがあるのですけれども、これからの観光協会としては、釧路の市民のみならず道内、本州の観光のお客様にも周知していけたらいいなと思いながら、国際交流センターの1階で、目の前に広がる幸町緑地を眺めながら仕事をしております。

釧路は4番目が好きな市といわれているらしくて、たしか人口も4番目とかそれくらいで、釧路ラーメンもほかの札幌ラーメン、旭川ラーメン、函館ラーメンに続いて4番目に釧路ラーメンを出したということですが、観光協会では、空港に関しては、4番目は避けようと頑張っております。一昨年、公立大学の小磯先生の方からお声をかけていただいた港湾研究会に入れていただいたのがきっかけで、それまで港町ですからということで、観光のお客様に説明していたにもかかわらず、港については余り考えたことはなかったことに気づき、これをきっかけとして、港の建物とか、もっとそこから広がる港などについて考えていきたいなと思っております。

佐竹氏 皆さんのお手元に釧路新聞を置かせていただいたのですが、きょう、早起きしてつくってきました。道内各地から来ていただいた皆さんは、それぞれ港に関する活動をしており、港に関して余り知識のない私にできることは何だろうと考えたら、人がいないと港の魅力にならないので、きょうここにいる皆さんと港を歩き、皆さんを御紹介した記事を釧路新聞の中から掘り起こしてみました。皆さん結構記事に出ているのですけれども、その中から抜粋して、ごく一部ですが、平間さんや村中先生に書いていただいたコラムですとか、また松実さんが釧路新聞に寄稿していただいた記事も入れました。

あと、きょうの釧路新聞も用意させていただきましたが、私の記事ではないのですが、きょうのトップ記事は「泳げサンマ」ということで、釧路は今サンマの水揚げが始まったところなのですが、釧路は、なかなか水産都市でありながら、生きのよさを体験できる場所がなかったのですけれども、今回観光施設などで、生きたサンマを皆さんに体験していただけるような研究が始まるという記事が今日のトップ記事だったので、この会にぴったりかなと思ひましてご紹介しました。



そのほか「重箱の隅」というタイトルの情報誌が何部か入っているのですが、私、新聞社の仕事のほかにチャレンジ隊というボランティア団体の代表をしまして、そこでは、私もボランティア活動しているのですけれども、いろいろな地域活動の情報を集めて発信するという活動をしています。地域で有名な人でなくても隅っこで一生懸命頑張っている人とか、隅にある釧路の宝物に的を絞るという意味で「重箱の隅」というタイトルをつけました。

佐々木氏 食べ物の仕事をしておりますので、地元の方はもちろん、観光客の方とも接する機会があるのです。私は、札幌からお嫁に来て、もう相当前なのですが、釧路の方が長くなりました。当時の釧路の町はもっとにぎやかで、漁

師さんがいっぱい歩いていまして、腹巻きにお金を入れて、うちは寿司屋でしたので、大変羽ぶりがよく、毎日のようによく食べて、けんかも多かったですけど、すごくにぎやかな時代でした。

今は 200 海里の影響でその影は全然なくなりまして、漁師さんもサラリーマン的になってしまいましたね。

ひところは「船があがったぞ」「バケツ持って来い」と言うものですから、バケツ持っていくと、「こんな小さいのじゃだめだよ」と言われながら、いろいろな魚をいただいたりしたときもあったのですが、今はそういう漁師さんたちではなくて、地元の小さい船を持って働いていらっしゃる方とつながりがありまして、できるだけ新鮮なうちに欲しいと思ひまして、そういう漁師さんと契約して、きょうは何が上がったぞ、きょうは何が上がったということで、新鮮な魚の料理を提供させて頂いております。

私は、釧路の芦野という地域に住んでいるのですが、海があることをちょっと忘れてしまうのですね。ちょっとうれしかったのは、半年ぐらい前だったのではないかと思うのですが、コマーシャルで毛嵐って出たのわかっていますか、サンヨーか何かの洗濯機のコマーシャルだったと思いますが、釧路の川から、冬ですよ、毛嵐上がるの。気温の違いで毛嵐というのは川からわーっと霧が上がる、それを使ったコマーシャルが、半年か1年くらい流れたのではないかと思うのですが、こういう言葉が全国に流れているのはうれしいと思いましたね。

あとは、ハウスのコマーシャルで、厚岸のカキがコマーシャルに出ていましたよね。そういう地域を拾ってくれるコマーシャルをしてくれるのがすごくいい宣伝になるのかなと。そのことも含めて、釧路にもおいしいもののいっぱいありますので、皆さんに紹介していけたらいいなと思っております。

相馬氏 大学の広報から「賑わいのみなとまちづくり懇談会」でやってみないかということでお声をかけていただいて、今、うちの大学から私ともう1人、男の方なのですが、2人で入りまして、活動しております。

「港で遊ぼう in 釧路」ということで、去年初めて、新しく国際交流センターの前にスポーツのちょっとできるような、ストリートバスケットとスケートボードの高度な新しくできたもので、それを利用してちょっとしたお祭りをということで、港で遊ぶ企画をしました。このほかにもミニコンサートですとか、国際交流センターの中でちょっとした港の歴史館みたいなものを出してみました。

「賑わいのみなとまちづくり懇談会」の方は、釧路港がやはりちょっと衰退してきているのではないかと、ことで、やはり大きな改革をしようではないかという話し合いが中心に行われています。今使われていない倉庫などが港にずっと建っていますので、そちらの活用ですとか、その地区の整備、ちょっと危険な地域も見られるということで、あと、釧路に来る観光船飛鳥ですね、ほかの観光客の皆さんが来てやっぱり港を観光していただけるようにもっと整備した方がいいのではないかと、市民がもっと港に行こうと思ってもらえる環境づくりのための話し合いを進めています。

活動の方は、そんなに頻繁ではなく、まだ1年しかたっていないものですから、あまり詳しくはないのですが、きょうは皆さんのお話を聞いて、委員会の方の活動に生かせたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

永田氏 職業は、よく十六番倉庫のおばさんじゃないかと言われていたらしいのですが、ちゃんとした本業がありまして、本業はインテリアコーディネーターとカラーコーディネーターという仕事をしております。先ほど松実さんが釧路は4番目が好きと言いましたが、私は1番が大好きですので、インテリアもカラーコーディネーターも釧路で一番最初にトップで取りました。以来、17年間、インテリアとかカラーの仕事をしております。コーディネーターは自分の手で、今現在、釧路市内に20名くらい育てた者がおりまして、みんないろいろな建設会社さんで働いたり、ある者は資格とったがゆえに引っ張られて、札幌の本社に行っちゃったりだとか、何のために育てたんだよと思ったりしています。

釧路は、自転車で行けば新富士の海岸まで約10分ぐらいで行ける場所ですので、港のかかわりというよりも、そういう砂浜での、青春ですね、高校入試や大学入試のときには、一人で海を眺めたり、ぼーっとして、そういう潮風に触れる環境の中で育ちました。

ですから、札幌ですとか、帯広とかによく車で出かけるときに、音別の山を一つ越えますと空気とにおいが変わります。嫌いな方は嫌いだと思います。魚臭いにおいですね。潮のにおいとも言えると思うのですが、私はそのぐらい釧路の町が大好きです。

もちろん食べ物もおいしい、自然も豊富で美しい、なおかつ、その中で霧だとか非常にロマンチックなものもありますので、釧路の観光はまだまだ捨てたものではないと。

この夏は、全室冷房完備で、お金払わなくても釧路はいつも冷房が入っております。

新しい観光のあり方も、それから港のことも含めて考えていかなければいけないんだろうと思います。ただ、私は船に乗ったことも、遊覧船以外乗ったこともないですし、魚釣りもしたことがありません。ましてや泳ぐこともできません。

港町の方は泳ぎが達者でしょうと言われませんか。皆さん泳げるんでしょうかね。釧路は非常に水温が低いので、まず海水浴ができないんです。ですから、砂浜でバレーボールをしたりすることはあっても、私の記憶の中で、ひざより上に水があがってくることはないんです。ここまであがったら、多分釧路新聞の1面トップで心不全とかで出ると思います。そのくらい釧路の水は冷たいのですよ。

十六番倉庫というのはNPOで5年前に立ち上げた組織です。補修・改修をした築100年ほどの古い倉庫でございます。ここからの帰りにちょっと寄れますので、どうぞお寄りください。

そこでイベントホール的なものということで、1時間1,000円というとても低料金で、電気も水道も何を使っても1時間1,000円ということで、開放しております。

それでは金が続かないだろうと。続くわけないですよ、1時間1,000円で、1日2時間じゃあ2,000円しか稼げませんから、1時間1,000円で使用者が使えるためには、オーナー会員制度というのをつくって一人1万円出してくださいますようお願いしております。現在は、6年間で、200人近い方が、1年間文句も言わずに、口出しせず1万円を拠出していただいております。そのおかげで若い子たちが1時間1,000円で倉庫を使うことができます。

釧路の魅力とPR

司 会 ありがとうございます。

二つ目の話に行くわけですが、釧路の魅力と活路について、遠方からお客さんが来たときに皆さんどういうおもてなしをされるのかとか、どういうところに連れていきたいのかとか、何を見てほしいとか、あと何をPRしたいとか、そういうことについて、御自由にお話いただければというふうに思います。

佐々木氏 3連休(7月16~17日)ですから。ほとんどの方が観光客です。隣はあぶりやさんで炉端があるので地元かなと思って聞くと、やっぱり観光客なんです。やっぱり観光に来たら、食べるものがおいしかったら旅行はよかったわということが大半占めると思いますので、入ってきて「いらっしゃいませ」から、本当に「ありがとうございました」とお店を1歩出られるまでが接客なのよということで、ホールが一番大事だから。

食べ物の味は、釧路のお魚おいしいと言ってくれるのは私はとてもうれしくて、2番目ではないのですけれども、こういうことがちゃんとそろわないとおいしかったということにならないということです。

やっぱり湿原とかそういう景色も決して悪い印象ではなくて、プロジェクトXが入りましたよね。あれ見た次の日に、湿原をやったのですけれども、もう観光客が入ってきているのです。テレビの力ってすごいなとつくづく感じました。せっかくいいものがあるのをもっと上手に伝えられたらいいなというのはいつも感じていることですね。

釧路すごいいい昆布がとれるので、お土産に向こうに行くときにたくさん持って行って配ることができるのですが、料理できないと言われちゃうんですね。どうやって食べたらいいんですかって。考えたら、地元の若い人たちも今昆布なんて自分で炊く人はいないのかな。食べ方もいろいろあるのに知らないかもしれないと思って、地元の方からそういうことも教えていかないとダメかもしれませんね。

相馬氏 昆布は食べますけれど、ちょっと触れません。自分で何かしなさいと言われたら、だしをとるくらいより考えられないとかできないですね。

佐々木氏 海の水が冷たいことと良質の昆布をえさにしている貝類とかウニとかが甘みを増して、本当においしくなるんです。できるだけ私たちが向こうに行くときはミョウバンを使っていないウニを持っていったり、それからツブも貝のまま持って、貝のまま食べさせてあげたりとか、ウロもたべられるのよと食べさせてみたりとか、皆さん感激してくれるのですけれども、そういうこと地元がよくわかっていないかもしれない。

司 会 では、佐竹さんには、取材しながら、いろいろな釧路の資源とかそういうものを見たりすることとか感じる人が多いのではないですかね。

佐竹氏 やっぱり人は人につくとか、ものの資源のよさをPRする一方で、そこにどう人が絡んでいくかというのを伝えていきたいと思うし、外から来た友人とか知人に釧路を紹介した後に、私がいなくてもまた行く店というのは、大抵そのマスターとか大将とかおばちゃんとかと仲良くなったところなんですよ。多少まずかったりしても、多少高かったりしても、行くのはやっぱり「いや、あんたまた来てくれたのかい」と言ってくれるようなところとか、カウンターに一人で座っても話しかけてくれるお店とか、そういうところが多いので、そういうのはもっと伝えていきたいし、それを地元からの発信というものもあるし、新聞社としては、そういう情報、ボランティアからの情報発信なども含めて、人の顔の見える、そういう紹介の仕方をしていきたいなと思います。

今道東は、知床が世界自然遺産になりましたが、私は、環境省でやっている釧路湿原の自然再生事業という自然環境の取材を長くやっているのですが、世界的に貴重な資源なのですが、非常に学術的で専門的で、正直言って一般の方にはわかりにくい。湿原展望台に連れて行って、上から湿原を見下ろしても、もう1度湿原に行きたいと思ってくれる方は、正直余りいません。私、湿原の観光ツアーの取材に行っても、ひまそうにぶらぶら歩いている人が結構多いです。でもそこで、もう1回行ってみたいと思うときというのは、名物ガイドさんが連れていくときですね。ガイドさんがうんちくで話してくれて、小さな花の魅力を話してくれたときに、そのガイドさんの話を聞きながらもう1回見たいからまた来たいという方がすごく多いんです。結局、港であっても水産であっても、地域の資源の魅力を訴えるのに、必ずその裏に人があると思うんですよね。

平間氏 実はうちの活動の中で女性団体協議会という会議を2年前に東北・北海道の大会を開いたのです。そのときに、大会の内容そのものは北海道女性団体協議会さんが仕切るわけで、あとはどうもてなすか食後のあいている時間をどう使うかというのはこちらが自由に企画できるのですが、まず決まったのは、6カ月前かな、この管内のリーフレットをまず先に送ったのです。あと、それからいらしていただいたときに、考えたのが、私自身は先ほど言ったみたいに農家なので港はすごく珍しいんですね。ということで、東北も北海道も海岸線というのはあるけれども、内陸の人たちもいるということも含めて、あとそれから東北と北海道、と言っ

たときに、産地は違って味は違うんだけど、ホタテはホタテ、サケはサケ、結構道内食べられるものはみんな同じ名前なのね。味は違うのですが。それで、こちらもいろいろ反省して、東北の人たちが来る、道内に来るのですが、東北でこちらにない物は何だろうかということで、私もわからないのだけれども、三枚昆布というのは意外とないんですね、東北の方は。わかめのこぶなわけなのだけれども、三枚昆布をまずお土産として提供しようというのが一つ。それから、東北地方はいも団子って食べない、知らないのね。それで、宴会のときにいも団子を出そうとか、いも団子汁出したのよね。ところが、いも団子が時間がたってしまったので、熱くした物を入れればいいのに、どろどろに溶けちゃったということの失敗もありました。

それから、釧路のいいものを出そうということで、管内の食材全部かき集めて、あと地ビール出して3本寿司出して、サンマの寿司なのですが、徹底して釧路にこだわって出しました。テーブルの卓も大楽毛など、釧路管内すごく読めない地名がいっぱいありますよね。それを卓の名前にしました。

大会そのものは限られているので、朝の7時から1時間ぐらいのミニガイドをやりますと言ったのね。多分応募は少ないと思ったのですが、参加が200人ぐらいありまして、この建物のそこに港ありますよね。そこに集合して、その日ちょうど幣舞橋の向かいに東部漁協さんがあるのですが、そこでサケの水揚げを見せたわけね。

例えば毛嵐とかは、私、海の近くに住んでいたの、毎朝見れる年ってあるんですよ。あと、それから漁り火も通年あるんですよ。そういうこと含めて、もっともっとお伝えするものはいっぱいあるなと思っています。

佐々木氏 私たちみたいな商売やっているところは、そういうことがわかっていけば、こういうのがありますよと紹介できますよね。

どうしても釧路って滞在型の町ではないのですよね。素通りしていってしまう。そういうことがあれば、朝はこんな楽しみもあって、夜はこんな楽しみもあってというふうになると滞在をしてくれるから、うちなんかもよくなるかもしれない。そういう情報をもっと発信しなくちゃいけない。

平間氏 そのときまたま夜宴会が終わったあと、河畔を歩かれたんですよ、非常に整備されてきれいなんですよね。それで、アンケートにパリのセーヌ川のほとりみたいだとか、すごく賞賛の書かれ方をされていて、市の観光推進室にお届けしたということです。

佐々木氏 やっぱ昆布、これは三枚昆布といって、早煮昆布ともいって、すぐやわらかくなって食べられる。

永田氏 お料理の仕方が多分わからないと思うんだよね。厚岸の水産なんとかとお土産あるところのディスプレイの仕事で行ったときに、いろいろな昆布があったの。猫足昆布に三枚昆布に日高昆布にとろろ昆布に、いっぱいあって、これをディスプレイしてくださいと言われたときに、一つずつ聞いていいですかと。とろろ昆布はわかるんですけど、この何とか昆布というのはどういうふうに食べるものですかって、一応展示するというのも私たちの仕事なのだけれど、物を並べればいいということではなくて、これがどういう、例えば海の何メートルぐらいのところに生育しているというような環境などにも触れていくことが大切かなと。

だから、それを漁組さんの方としては、商品化するためには、それをちゃんとビデオに撮って流して、なおかつレシピもつけてやるというふうにしないと、私たちはだし昆布を煮てしまうかもしれないし、それわからないんだよね。だから、ただ、ここに何とか昆布って書くだけではなくて、中にレシピを1枚入れてくれるだけで商品価値が上がると思うんだよね。

素材とかそういうことに関して、とっても贅沢なものに囲まれて、おいしいものを毎日食べているんだけど、それを享受するだけで、それがどんなに幸せかがわからないということだと思うんだよね。

私、函館に1年間に1遍くらいずつ行くのですけれども、函館好きなんです。何が好きって、釧路のタクシーと違って、函館のタクシーの運転手さんは物すごく親切ですね。どこから来られたんですかって。例えば駅か

らどこどこまで行くんですって言ったら、頼んでもいないのに、この辺はこういう町で、こうでああでって、ちゃんとガイドさんしてくれるんですよ。母と一緒にいったときにはお金払ってガイドさんしてもらったんですが、個人タクシーの運転手さんに。そうしたら、ホテルからきゅーっと山のちょうど中腹ぐらいまで昇って、ここがスタート（メーター）です。まずこの景色を見てくださいということで、こっちは何、こっちは何って全部説明してくださって、1日務めていただきまして本当に感激したんですよ。

佐竹氏 昆布もそうだし、サケも向こうに行くと、サケって1種類しかないものだと思われている。サケってというのは、塩サケもベニサケもときもいろいろあって。

永田氏 でも、わかっている人がいるでしょう。違うってわかっている人がいても、どこがどういうふう具体的に違うのと言ったら、ちょっと、鮭児は高いんだよねとか、メジカは目が近いとか、それどこで見分けるんだらうという、具体的にはっきり見分けられないのね。

佐竹氏 イクラとか筋子とかもいろんな種類があって、イクラというのはサケの子をばらこにしたものをイクラというので、私もこの仕事して知ったのですけれども。

松実氏 以前に釧路のタクシー運転手さんがやり玉に上がったことがありましたが、ほんの一握りのタクシー運転手さんがそういう気配りに欠けたことが、あっという間にマスコミや何かに書かれて、観光ホスピタリティというタクシー業界が批判的になっているというのがすごく気の毒だなと私は思うんですね。頑張っているところはすごく、頑張っているし、観光協会主催のマナー講習であるとかそういうようなものも必ず申し込んでくれて、マナーもいいけど観光のことについても教えてほしいんだと、そういう講習を設けてくれというリクエストをしてくれるタクシー会社さんも中にはあるんです。一方的に釧路のタクシーはって言われちゃうのはとっても私としては悲しいなと。

永田氏 つかみだと思うんだよね。たった一言、観光客の人が乗ったときに、観光ですかと言ったときに、例えば釧路湿原って東京ドーム何個分あるか知っていますかと言うだけで、その一言でこの人ってと思うんだよね。マナーじゃないと思うんだ。そこに例えば方言のよさだとか、ここのホットな気持ちがあればいいから、ほんの少しの人かもしれないけれど、そのほんの少しの人の底上げが絶対大事だと思う。

佐々木氏 そうですね。それはそう思います。

ホスピタリティの話になるとよく言われる、北海道はというの言われて、その中でも釧路はって、私たち自身も釧路の人たちのことをいろいろいうことがありますよね。食べ物のことは、こんなにおいしいものがたくさんたくさんあると言いながらも、それにまつわる人がというふうになるのはとても悲しいことだと思うんですね。

松実氏 釧路の人ががさつだとかホスピタリティの、おもてなしの心がないとか、そういうことでは決していないと思うのです。ただ、ちょっとだけ恥ずかしがり屋さんで、私が釧路に帰ってきてすぐに私を訪ねて本州のお友達が来てくれたんです。彼女たちはサービス業についていたものだから、自分から話すことが何ともない人たちだったので、タクシーに乗ろうがお店に行こうが、自分からおばちゃん、これ何とか、運転手さん、あそこはどういうことを話しかけると、皆さんすごく親切で、いろんなことを教えてくれて、その2人の友人は、釧路の人って何でこんなに親切なの、何でこんなに明るいのかと言って釧路を離れたんですよ。でも、きっとそれは彼女たちが自分から話しかけてくれたから、釧路の人間も答えた。本当は釧路の人間から、先ほどおっしゃったように、どこからいらしたんですかとか、釧路湿原行かれましたかとか、そういうことを釧路の方から言ってあげるのが一番だと思うんです。

永田氏 私、経済効果ということに尽きると思うの。一生懸命あなたが愛想よくすること、にこにこすること、これ必ずお金が落ちますということがわかれば笑顔になると思うの。そのタクシーの運転手さんじゃなくても、

どこでも気持ちよかったら、どこかでもう一つ追加でお土産買おうかなと。買われたお店で、そこのお店が繁盛して、その繁盛したお店は佐々木さんのところに行っておすしも食べて、経済は回るわけですよ。

平間氏 ホスピタリティという言葉自体がもうちょっとわかる人が、一期一会って言ったんだよね。そのときにしか会えないかもしれないとかいろいろ、そんなので、だからがさつさというのは、人柄が感じるとがさつは余り気にならないんですよ。だから、本当にその人の思いがいろいろな表情に表れてきて、変な話、にこともしなくても安心できる人もいるのよね。安心というかほっとする人というか。だから、そのあたりの、何で日本なのにホスピタリティって使うのかなって。

松実氏 私もいつも思います。何で横文字なのかなって。ホスピタリティにかかわらずどうしてこんなに片仮名が氾濫しているんだろうとは思います。

永田氏 私、どこかに行ったら、どうぞって、このくらいの小さいきれいな和紙の中に昆布が入っているの。それが桜の花形に抜いているの。お口寂しいときになって、こんな小さい昆布が5枚くらい入っているだけなんだよね。1個幾らぐらいしているんだろうなと思って、どこかの売店に行ったら、五つくらい入っているの500円くらいだったんだよね。ちくしょうと思った。釧路こんなに大きくて1,000円とかで売っていて、何枚も取れるよね、型抜きしたら。すごいよね。

それから、明太子だってそうでしょう。うち、お婿さんが福岡なんだけれど、必ずお土産に福岡の明太子贈ってくれるの。たらこでしょう、長い旅してきたんだなと思うわけ。釧路でとれているんだから。くやしいうって。

佐々木氏 私は釧路のホッケはこんなにおいしいとか、釧路の昆布はこんなにおいしいと言ってるんですけども、そうすると、お客さんは安心しておいしいものを送ってくださいとか言って、釧路の物を求めてくることがあるんだけれど。

本当のおいしいものを食べていない、本州の方。中にはいるんでしょうけれども。だから来てくれて、やっぱり地元に来ないとおいしいものには当たらないというのがわかってきているんだなと。

皮も骨もみんな食べれるように出すんですけども、きれいに食べていってくれますから、一つも残さず。

司 会 話聞いていると、人というものの大切さというのと、地元のものを、いいというのはわかっている人は多いんだけど、それをうまく加工したりPRしたり付加価値つけたり、みんな外に出ていっちゃっているみたいで、それがあからお金が釧路で回らないというのが残念です。

佐々木氏 昆布、つるつるにしてつくっているの知っていますか、釧路の水産試験場で昆布をまん丸くイクラのようにしてつくった製品があるんですよ。これせっかく研究してくれたんですって。ところが、釧路の加工場でどこもつくってくれなかった。それで、悔しかったな、どこか違うところに行っちゃってつくってもらっている。ちょっと1回うちで使ってみたことがあるんですけども、こんなおもしろいものがあるんだったら、もっと売れたらいいのにねって。

永田氏 売り方がへたくそなのかもしれないね。ネーミング大事なんだよね。ネーミングとパッケージ、中身は同じでも。

女性から見た釧路らしい港まちづくり

司 会 港をある程度核にしてまちづくりと地域振興というものを考えようということだと思うのですが、それについて何か、今結構いろいろなアイデア出ていたと思うのですがけれども、また何か提案とか、あと先ほどもちょっと行政の方にありましたけれども、そういう困ったことでも、これからこうしてほしいということ

も、何か希望とか期待とかあれば、それについてお話ししたいと思います。

平間氏 さっき言った岸壁って延々と続いているというのありましたでしょう。ところが、たまたまぶつぶつ切れているのがあるのですが、基本的にずっとつながっている。それで、あれは作業場ですよね。ただ、それこそ海の日とか何かイベントでいいのだけれども、つくってほしいのはこういうふうな浜を書いて、ここ走りますと、海岸線。ここの深さはこれぐらい深いとか浅いとか、ここには何万トンのタンカーが来れるよとか、そういう地図があって、通年走らせろとは言わないのだけれど、1週間とか二、三日でもいいのだけれど、そういうのできるイベントの日をつくってほしいなと。

今回思ったのは、さっき話した、例えば米町のところに、砂浜があって貝殻がいっぱいとれるのね。そっちの方はなんとなく浜という感じで、岸壁は何となく港という感じがあるのだけれども、一体港とのかかわりというのは何なんだろうみたいに、それで、浮かんだのが、魚関係のことしか浮かばなくて、港って意外とわかっていなくて、これからいろいろな勉強するにしても、私たちの角度からいうと、浜も港もいっしょくたなのね。だから、海とのつながりという意味の浜とか港とかということの合同のものをやるならやってほしいなと。

松実氏 釧路の港ってこんなだよというような子供向けのパンフや、私たち向けのパンフもあるんですけども、やっぱりつくっている数が圧倒的に少ないのです。

港ってどうしても観光協会という仕事柄、観光に関係する方を考えがちなので、これは夢なんですけれども、やはりフェリーの復活です。四、五年前に就航していたような大きな立派なフェリーじゃなくていいし、どこか本州の港ともう少し小規模なフェリーが復活してほしいなと。そして、その復活した際には、西港ではなくて中央ふ頭のおどろおどろしい倉庫の前ではなくて、もっと Moo 寄りのきれいな場所が良いと思います。今、ちょうどハマナスが咲いてすごくきれいな、釧路市内で一番きれいだと思う。もうちょっと前だったらツツジが咲いて、降りてすぐあそこに来た方がお客さんとしてはいいと思いませんか。

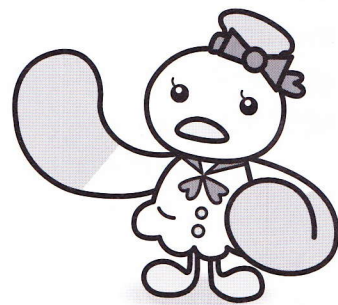
釧路市長があそこをもっと掘って接岸出来るようにするぞと言ってくれたんですけども、その後はどうなったのかなって。

上田港湾部長氏 フェリーは、個別の意見いろいろいただいていますけれども、今フェリーの話が出ましたが、フェリーは民間事業者の仕事ですので、なかなか採算性の面ということがございまして、官が一生懸命やってはいますけれども、やはり十分採算性という面で難しいかなということです。

旅客船の話については、市長の方からの話にもありますけれども、今そういった方向に向けて具体的な検討を今進めているところでございます。ただ、国の方もいらっしゃいますけれども、余りはっきりしたお話はできません。

松実氏 本州のお客様の中で、北海道に行くにはやはり車がないとだめだということが本当に浸透してきているみたいなのですね。結局レンタカーを借りるんですけども、皆さん。でも、中には、かなりの数の方が自分の車で行きたいと、夏前の観光のお問い合わせの中で、フェリーはどこから出ていますか。フェリーは就航しているものだという問い合わせが結構多いんです。済みません、出ていないんです。本州からだとか小牧だけかなというようなお答えしかできないのが今ちょっと悲しいですね。

佐竹氏 港湾に関する自分の記事をちょっと検索してみたんですけども、その中で、上田部長いらっしゃっていますけれども、港湾と市と釧路公立大との共同研究で、釧路市の港湾関連産業の営業収益が年間約 400 億円。運輸関係の



港湾依存産業の年間営業収入約 2,300 億円。雇用者数は約 1,600 人。釧路市の雇用人口の約 2 %。港湾関係の市税の税収は、市全体の約 5 % になって、経済的にもかなり効果を担っているのですね。ですけれども、どちらかというと港というのは、例えば炭鉱とか製紙業よりもちょっと市民と 1 歩置いた感じの、遠い感じになってしまっているなという感じはするのですが、先ほどパンフレットたくさんあるって言って、でもみんなの手元になかなかない。本当の平仮名でいうみなとまちというふうにあんまり市民レベルではなっていないのかなという気がします。

永田氏 この 3 点目の、女性から見た釧路らしいみなとまちづくりということで、まず港湾行政に対する期待や希望ということで、ぜひ水族館をお願いいたします。私たちが、これはお金のこと関係なく、言いつばなしですから、一応希望ということで、100 億円くらいかかるんだろうなと思うから、釧路、水産水揚げ 100 万トンという時代があって、ずっと全国 1 位という水揚げ量、漁獲高というかお金の話ではなく、あのときにつくっておけばなと今つくづく思います。水産都市ということであれば、私は水族館は必要かなと思います。今、マリントパスにもありますが、ああいうものではなく、もう少しコンセプトというか趣旨をきちんと持ったものが必要ではないかなと思います。小学生が行っても、釧路でとれる魚が、わからないのではやっぱり困るので、水族館欲しいなと常々思っております。これが港湾行政に対するまず第 1 の希望です。

提案としてなのですけれども、港町の中でまちづくりというか、市民の人たちが港町の住民であるということ意識するということは、私、美しい景観がひとつ大事だと思うのです。親水性というか、水にじかに触れるということもまず大事です。私たちぐらいになると、どこかすてきなデッキとかで、夜景を見て、先ほどの漁り火じゃないけど、きれいだわなんていう、港は公園のように広く開かれているという部分もちろん必要。

その全体を見たときに美しい景観だなとして、夕焼けが背景にあって眺められるような場所であったり、夕方そこでお茶ができたり、夜そこで恋人たちが寄り添って眺めたりすると少子化にも歯止めがかかるかなと思うのですけれども、そういういろいろな角度から港というのは見るべきだと私は思うし、資産として優れたものだと思うんだよね、というふうに思います。

相馬氏 私、港が管轄で行政が分かれているという話で、実はみなとまちづくりの懇談会の中でもかなり話題には上がってしまして、Moo から上流の方の川を全部一括管理にしてほしいと言ったときにはできませんみたいな話になって、すごい区切りがあるという話なんですね。でも、私はそういう難しいことはちょっとわからないので、やっぱり変えるんであれば全体を通してすてきな雰囲気のある河川環境をつくる必要が釧路にはあるのではないかなと思います。

千代の浦の海岸の方に釣り公園というのが建設されていると思うのですけれども、あれも地震で壊れて以来、多分 1 年間以上手をつけられていない状態で放置されているのがちょっと残念……。私も行きたいなと思って行ったら全部立ち入り禁止で、これではつくった意味がないのではないかなという感じなのですが、あそこは子供とかも遊べてという雰囲気だと思うのですが、あれに近いものが例えば Moo の方と、釧路は車がないと生活に不便な町なので、もっと大規模な駐車場、無料駐車場などを整備して、暖かい日には気軽にちょっと出かけて遊べるとか、そういう環境づくりが大切ではないかと思っております。やっぱり若い人は港には行かない傾向があります。

例えば別保公園が釧路近くにありますが、あそこにやっぱり行きますね、車で行って、駐車場にとめてバーベキューコーナーがあったりちょっとした公園があるとなると、暑いからちょっと遊びに行こうという話になりますが、やっぱり本当は海に行きたいんです。でも、行くとしたら白糠まで車を走らせます、行くときに砂浜で遊べますよね。

Moo のあたりにもっとああいった、砂浜はもちろんできないと思うのですが、港のふちにちょっとした空間があれば、そして駐車場があれば、じゃあ Moo の方に行こうかというふうになっていくのではないのかなという。

うちの大学のほとんどは地方の人ばかりで、道外生もすごく多い学校なのですが、釧路に来たときに、港はどうかと言われて、見るところなんかいいイメージしかないですし、それに反論することもちょっと難しい状況ですね。見渡せる場所ではまなぼつとの 10 階が展望室になっていますけれども、あそこは夜は開放していませんよね、10 時ぐらいまでですか。大学生はバイトなり何なりで、その後遊ぶとなると、やっぱりちょっと出て歩く場所がないこの辺を考えてほしい。

佐々木氏 夕日が世界 3 大夕日の一つでしょう。そのぐらいすばらしい。春と秋に見える夕日の色が違うとか。でもやっぱり港では、「おさかなまつり」という、これが市民が一番港に行く、この日ぐらいしかいかなないかなというぐらいのイベントです。これはすごく大きいのにになりましたよね。

松実氏 せっかくおさかなまつりが出たので、このパンフレット、釧路大漁どんぱく、秋に開催していい味いきいき釧路ですとか、それから新しく加わった農業農村フェア、花火大会、末広のはしご酒大会とあわせて秋の一大イベントとして釧路市及び関連団体が頑張っています。

これもやはり、大漁どんぱくというのは博多のどんたくからとったのですかと言われるのですが、どーんと上がる花火を、楽しみながらぱくぱくおいしいものを食べましょうということなんですね。これも、「おさかなまつり」はふ頭でやっていて、そのほかのメインステージや何かは幸町緑地、交流センターの前、全日空の前の広場で、ここも一応港湾用地なので、やっているの、このお祭りがもう少し全国的に認知されることを願っているの、皆さんも御協力お願いします。

永田氏 昔の和商は、ネギ 1 本でも買えるし、一山幾らのやつ半分でもいいし、カレー 3 枚乗っていたら、4 人家族だから 1 枚乗せてって、対面販売の機運があったんだよね。今、みんなカニでしょう。だから、市民の台所に戻らないと、観光客が観光客のスポットに行ったらおもしろくないの。あそこがおいしいって、あそこがいいって市民の人が言うところに行くんだよね、観光客は。

Moo が今行って全然見るところがない。本当に地元の人が行かない。行ってもおもしろくない場所になってしまった。向こうから見る夜景とか景色はきれいで悪くないのだけれど、もっと生きた活用法がないのかなと思いますよね。

場所がちょっとわかりづらいとは思いますが、観光協会さんの場所が、交流センターのすごい奥でしょう。あれはよくないと思うの。あの壁をとってカウンターをつくって、ミスチュールップでも何でもとききたすきかけて、インフォメーションセンターに出させるくらいの気持ちで、ここが観光の情報発信基地ですというのをやられるのであれば、あそこの壁は取り払った方がいいと思います。

司 会 そろそろ時間にもなりまして、きょういろいろ本当に楽しい話とか提案とかしていただきまして、これを何かまとめて方針を決めるとかそういうことではないのですが、ただ、今のお話はきっとオブザーバーで来られている方とかほかの港から来られている方とかにもすごく参考になったり、あるいは改めて自分のところを考えるきっかけにもなったのではないかなと思います。

それで、この座談会は今この場で終了するのですが、この後またお食事をしながら 2 時間ぐらい昼食懇談会というのをやります。多分後ろの方にいる方もしゃべりたいことがいっぱいたまっているのではないかなと思うので、またその場で 2 時間ぐらいお話できればと思います。

本日はどうもありがとうございました。(拍手)

地域懇談会について

出席者（女性ネットワーク会員）

大西 育子：女性みなとまちづくり苫小牧代表（苫小牧市）
佐藤 尚子：函館すぶれっと代表（函館市）
白井 晴美：網走漁業協同組合女性部長（網走市）
菅原千鶴子：NPO 法人女性懇談会ウィッシュ事務局長（留萌市）
竹内 珠己：日専連紋別専務（紋別市）
立野 了子：室蘭ユネスコ協会会長（室蘭市）

司 会

田中 敦幸：NPO 法人北海道みなとの文化振興機構 理事

平成 17 年 7 月 16 日（土）、釧路市全日空ホテルにおいて開催された「みなと座談会」（別文にて報告）に、全道の港湾から 6 名の「北海道みなとまちづくり女性ネットワーク」（以下、女性ネットワークという）会員の方が参加されました。

この機会に、「みなと座談会」終了後、各港からご出席の方により、「地域懇談会」を開催し、各港の「みなとまちづくり」に対する取り組み状況や日頃「みなと」に対して感じておられること、あるいは釧路の印象について報告して頂きましたので、そのご発言の要旨をとりまとめてご報告します。

地域懇談会の概要

懇談会の冒頭、司会者より「みなとの主人公は、みなとまちの市民である」ということが強調され、「本日お集まりの方は、それぞれのみなとまちで、指導的立場でご活躍中の方々です。皆様のみなとのお話や、あるいは釧路港の印象、さらにはみなとまちづくりについてのご意見など率直にお話頂きたい」旨述べられ、懇談に入りました。

なお、以下、ご発言の順に記載しております。

菅原千鶴子

留萌港では、これまで「フェリーの就航」に全力で取り組んで参りましたが、残念ながら、まだ実現していません。また、フェリー誘致とともに、ローロー船（車両輸送用で旅客用施設はない）の就航にも努力していますが、これもまだ見通しが立っていません。

このため、フェリー用に建設を進めている三泊埠頭の活用が今後の課題ですが、道央圏に位置し、北海道の穀倉地帯、上川地方を背後圏に持つ立地条件を生かして、今後留萌のみなとづくり、まちづくりを進めていきたい。

佐藤 尚子

釧路に参りましての印象を簡単に表現しますと次のようになります。

霧と控えめな女性が出迎えてくれた釧路。神秘的な釧路。おもてなしの心、すばらしい人、厚い想いの女性との出会い。また、皆さんにお会いしたいと思うすてきな街。そして海と大地からいただいたおいしい食物にめぐり会い、最高なひとときを過ごすことができました。

でも街の中がちょっと淋しいと感じました。しかし、函館も同じような感じです。釧路港に来て、その機能の大きさに驚き、また、釧路は海と大地から恵みをたくさんいただいている街です。市民がもっと釧路の港に目をむけ、市民がたのしめるみなとまちになったらいいと思いました。私は、港の発展にも、市民が心と想いをこめることが大切だと、あらためて思いました。それが女性のパワーです。母なる心で人と街を愛せる人を育てていきたい。ひとつひとつ前向きに出来ることからやっていきたいと思いました。

立野 了子

釧路は素晴らしい人達が大勢いて、「みなと」と「まち」の活性化に取り組んでおられます。

室蘭港には、全道で初めて大規模災害に備えて「防災フロート」が常備されています。女性の会で見学もしていますが、一般市民には殆ど実感がありません。もっと行政は市民にもPRすべきと思います。

室蘭は、かつて、重工業を中心とした工業港として発展してきましたが、最近は室蘭市の人口も減り、まち全体に活気がないように思われます。

しかし、NPO 法人「推針盤」が中心となり、中央埠頭・旅客船バースで、音楽会や多様な催しを開催し、また、去年4月「室蘭港市民大学」が開校、今年3月第一期生が卒業するなど、室蘭もみなとまちの活性化に真摯に取り組んでいます。

竹内 珠己

どこの港町も、皆様、地域資源の魅力を、打ち出そうと頑張っておられ、いつも感心させられます。

観光振興には、地元の人間が資源の良さを理解していなければ成りません。

観光は「人が資源」、観光は「人につく」お店は訪れた人達が地元で訪れた店の人の顔の見られる資源、との意見には、納得。気を配り度いものと感じました。

紋別には、紋別港と紋別空港の2つの「みなと」があります。官民一体に成り描いた夢が実現しましたが、紋別空港には東京便、丘珠便がそれぞれ一往復就航しており、丘珠の定期便の存続問題が課題に成っております。

紋別港は、冬期間流水に閉ざされますが、流水砕氷観光船ガリンコ号が就航し親水防波堤には（クリオネプロムナード）との先端に位置する氷海展望塔（オホーツクタワー）がオープンし、オホーツク海、特有の流水と共生する港が実現し、多くの観光客が集まり、まちの活性化が図られています。

また、まちの女性団体が集まり、フリーマーケットを企画し開発局や市の協力を得て大きな成果を挙げています。

今後は、クリオネプロムナードのような港の施設をもっともっと公共にオープンして頂き、家族で港に親しめる様な企画を考えて行き度いと存じます。夜に成ると幻想的に想えるプロムナードを使用して「夜のレストラン」を開催してみるのも素敵かなと、皆様のお話の中からヒントを頂いてワクワク致して居りました。

大西 育子

釧路港は、苫小牧港と異なり二つの川（釧路川・新釧路川）と港・街のバランスがとても良く、西港整備も進行しておりすばらしい港と感じました。

ただ、フィッシャーマンズワーフ・ムーについては、失策だと批判するのではなく、現存していますので運営の内情はともかく、まず外見から補修をすべき！！

各商店街の団体等で、壁面（タイル？）を一枚ずつでも塗りかえる努力が必要と思います。

行政にばかり頼るのではなく、みんながそれぞれの立場でできる事から着手すべきと考えます。

白井 晴美

いつもネットワークの会に参加して驚きますことは、どこの港まちでも、女性ネットワークの方々が、活発に行動されていることです。釧路も、まちづくりに関わる女性の皆様が、まちの活性化を真剣に考え、取り組んでいらっしゃることに感心致しました。今の地方都市、共有の悩みが有ることも分り、その大小の違いはありますが、参考になることが多く有ると感じました。港湾には様々な用途が有ります。港は主に仕事の間として作られましたが、その中に、観光、レクリエーション、癒しの場としても活用されています。今後共有して行くためには、利用者の公共意識の有り方が大切だと思います。私は基本的には仕事と遊びの間は、しっかりと区別された方が良いと思いますが、現在は、共存の方向性が強いので、両者がよく協議して、より良いみなが作られることを願っております。私のまち、網走も、新しい港が、出来つつあります。市民が、自分たちの場所として、どの様に活用するかは、まだ少し先の様です。都市計画という部分は、大変大きな事業なので、国、自治体等、いわゆる、お役人と言われる人達の計画の中で決められ、作られて行くものの様で、私達普通の市民は気がついた時には、出来上がっている、というものです。これからは、少しでも普通の市民の意見を取り入れた、まちづくり、みなとづくりを願っております。

「ザ・シンポジウムみなと in 釧路」の開催について

■クルーズ飛鳥船内でシンポジウムを開催

7月19日、道東観光の玄関口である釧路港に飛鳥が寄港したこの機会を捉えて、ザ・シンポジウムみなと実行委員会は、「クルーズの魅力と釧路港の未来」をテーマとした「ザ・シンポジウムみなと in 釧路」を開催しました。

会場の飛鳥船内グランドホールは約150名の参加者で埋まり、将来のクルーズ寄港地として期待される釧路港の未来について活発な意見交換が行われました。

クルーズ専門誌「海事プレス」の若勢敏美専務が基調講演し、「北米からアジアに向かうクルーズが増える中、釧路港は地理的に玄関口として好条件を有しており寄港地となるには、地元の熱意が何より大切」と助言されました。

シンポジウムには、伊東良孝釧路市長とクルーズを企画するパシフィックツアーシステムズの祖師英夫営業部長が参加し祖師部長は、「知床が世界自然遺産に認定されるなど釧路はクルーズの寄港地として魅力的」と発言したのに対し、伊東市長は、このような状況を踏まえ、釧路川下流にクルーズ専用バースの建設計画に着手していきたいと発言しました。



パネルディスカッション